

**VLBIプログラム小委員会  
および  
VLBI運営小委員会の報告**

小委員会委員長

藤沢健太(山口大学)

# VERA・KAVA共同利用

- 形態
  - VERAとKaVAの共同利用を並行して実施
  - 1年に2回公募、観測実施も半年毎
    - 審査及び本小委員会も2回開催
- 審査と観測時間割当
  - VERA共同利用時間は700時間／年以内
  - そのうちKaVA時間は500時間以内
  - KaVA審査・時間割当を先に実施
  - VERA共同利用審査はKaVAの後

# KAVA共同利用観測

- 『限定的共同利用』(リスク・シェア)
  - 対象者: 日韓中台の研究者
  - 周波数: 22/43GHz(1波のみ)
  - モード: 1ビーム、1偏波、1Gbps(周波数チャネル配分固定)
  - T<sub>0</sub>Oを受け付ける
- 前後期2回公募
  - 前期(A): 2015/01/15-2015/06/15
  - 後期(B): 2015/08/15-2016/01/15
- 観測割当時間 = 500時間 / 年以内

# 応募状況と審査・時間配分

## KAVA TIME ALLOCATION COMMITTEE (TAC)

- 応募
  - 総数16(A:6, B:10)
    - 日3、韓10、中3
  - 総要求時間 567時間
- 採択
  - 採択総数14(A:5, B:9)
    - 日3、韓8、中3
  - 観測時間 419時間
- TACメンバー
  - Fujisawa K., Minh Y. C., Sohn B. W., Honma M., Byun D.-Y., Shibata K. M.
- TAC会議
  - (A) 2014年12月12日
  - (B) 2014年7月6日

# KAVA LARGE PROGRAM

- 大型観測計画
  - KaVAの研究の促進
  - 3(+1)研究グループ
    - サイエンス・ワーキンググループの活動を基礎とする
  - 年間100時間程度
  - 3か年計画
- 提案グループ
  - 星形成(廣田・Kim)
  - AGN(紀・Sohn)
  - AGB(今井・Cho)
- 審査会
  - 2015年5月7日@延世大
  - 審査員:日中韓台から専門家を招いて実施
- 結果
  - AGB:承認→観測実施へ
  - SF, AGN:内容改訂後に再提案

# VERA共同利用観測

- 定常的共同利用
  - 周波数 = 6.7/22/43 GHz
  - 2ビームの観測 = 提案可能
  - 観測局の利用形態は3通り可能
    - VERAのみ
    - VERA+NICT34m
    - VERA+NRO45m+NICT34m
- 目標観測割当時間
  - VERA共同利用時間は700時間／年以内
  - KaVA時間(最大500時間)を除いた時間数が目安

# 応募・審査結果

## • 応募

- 総数16(前年は14)
  - 国内14、国外2
  - AGN 7、メーザ 9
- 総要求時間 692時間(平均43時間/提案)
  - 野辺山・鹿島利用希望 4提案、126時間

## • 採択

- 採択数 9(前年は8)(A:4, B:5) → 総合倍率1.8倍
- 観測時間 290時間 (A:178, B:112)
- 野辺山・鹿島の利用 3提案、78時間  
(可能な範囲で実施)

# 時間割り当て以外の議事

- 委員会構成員・出席者(敬称略)
  - 台内:柴田(水沢VLBI観測所)、齋藤(野辺山)、郷田
  - 台外:関戸(NICT)、今井(鹿児島大学)、藤沢(山口大学;委員長)
- 議論
  - 長期観測の提案について→採択されたら1年分は保証
  - レフェリーコメントの改善について
  - レフェリー増員について→次回から実施予定
- **KaVAへ野辺山45mが参加する可能性について**
  - 良い研究課題があり、利用の希望が強いなら、KaVAへ野辺山が参加することを真剣に議論すべき(86GHzの可能性も含めて)



# 国立天文台VLBI運営小委員会報告

- VLBI運営小委員会とは
  - 国立天文台が設置する委員会の1つ。電波専門委員会の下部に位置する
- 構成員(敬称略)
  - 天文台内:立松、久野、川口、柴田、郷田、小林、佐々木、本間(8名)
  - 天文台外:面高、中井、福崎、徂徠、藤澤、米倉、小川、高羽、嶺重、村田、関戸(11名)
- 設置目的(「国立天文台専門委員会規則」より)
  - 第2条 委員会は台長の諮問について答申をし、または台長に意見を具申する。
  - 第8条 各委員会等に、その任務とする特定に事項について調査審議するため、小委員会又はワーキンググループを置くことができる。
- 今期の委員会の議論の方針
  1. VLBI運営小委員会は、電波専門委員会から出された審議事項を審議し、電波専門委員会に答申する。
  2. VLBI運営小委員会は、国立天文台が主体的な役割を担うVLBIの研究に対し、将来計画を含めた研究計画と研究の指針を議論し、VLBI関係者の総意を形成し、またそれを電波専門委員会に提出する。
- 委託期間は2年。毎年4回程度の会議を開催。

# 審議事項(代表的なものを紹介)

- VERA・KaVA共同利用に関する事項
  - VERA・KaVAの運営、特に共同利用の方針は本小委員会で審議し、電波専門委員会に答申して承認を受けて、初めて実施される。
- VERA・水沢VLBI観測所の運営に関する事項
  - VERA/水沢VLBI観測所の運営と将来計画に関する議論を行う。
- 大学連携、東アジアVLBIの運営に関する事項
  - VERAを中心とする組織的な活動は、その方針や現状などについて随時報告及び審議を本小委員会で行い、上部委員会に報告する。
- その他
  - 国内外のVLBI関連活動報告、必要な事項に関する審議などを行う。
  - 関係する者が意見を公にし、議論を行い、合意を形成し、また必要に応じて判断をする場として、本小委員会がある。
  - 例:ブラックホール検討会(委員の提案によって組織され、議論が行われた)